

## 地域の安定に直結するコロンビア再建策

内多 允 Makoto Uchida

名古屋文理大学情報文化学部 教授  
(財)国際貿易投資研究所 客員研究員

コロンビアでは、反政府組織と政府軍との40年近くも続いている武力抗争が政府の統治機能を低下させ、経済不振を招いている。反政府組織の有力な資金源は麻薬の密輸である。麻薬の蔓延に悩む各国も、コロンビアの麻薬カルテルとの関係も取り沙汰されている反政府組織が国家の存立基盤と周辺諸国の安全を脅かしていることについて危機感を募らせている。

### 停滞する経済活動

コロンビア経済は国内の反政府勢力と政府軍との武力衝突や、各地におけるテロや誘拐事件の頻発を反映して経済活動が停滞している。01年の実質GDPや実質賃金、総固定資本形成の伸び率は前年に比べて低下した(表1)。都市部の失業率も01年には

18.5%を記録して、前年の17.2%を上回った。

総固定資本形成の伸び率は96年から99年にわたって、4年連続して減少を記録していた。特に99年には35.5%の減少を計上しているだけに、01年のような10%程度の伸びでは生産力の十分な回復からは程遠い状況である。

表1 経済指標の対前年比伸び率

|            | 00年  | 01年  |
|------------|------|------|
| 実質GDP      | 2.7  | 1.5  |
| 1人当たり実質GDP | 0.9  | 0.3  |
| 実質賃金       | 3.9  | 0.2  |
| 総固定資本形成    | 17.0 | 10.0 |

(注) 単位は前年比増減率%。  
(出所) ECLAC 『2001年中南米経済暫定報告』01年12月より抜粋。

製造業の成長率は00年に9.7%を

記録したが、翌01年には0.8%の減少に悪化した。

重要な輸出商品であるコーヒーや石油の生産にかかわっている部門の成長率も低迷している。農林水産部門の成長率は00年の6.2%から01年には1.5%に低下した。鉱業部門も同期間において10.0%と4.8%のいずれも減少を記録した。

対外経済部門も低迷している。海外からの対内直接投資額は00年の23億8,700万ドルから、01年は19億7,900万ドルに減少した。同投資額の対GDP比も00年の2.9%に対して、01年には2.5%に低下した。

経常収支(02年3月、同国中央銀行発表の国際収支表による)は00年の黒字(約4億ドル)から、01年は16億3,600万ドルの赤字(対GDP比2.0%)に悪化した。輸出入(財の貿易)収支の黒字幅も01年は4億9,400万ドルで、前年(25億3,100万ドル)の5分の1に縮小した。これは輸出の減少と、輸入の増加が影響している。その内訳によると、輸出127億5,900万ドル(前年比6.3%減)に対して輸入は122億6,500万ドル(同10.6%増)となっている。

## コーヒーと石油の輸出動向

コロンビアの主要な輸出商品は石油とコーヒー、石炭である(表2。なお、同表の数字は前記の国際収支表とは異なる)。これら3品目で、01年における伝統産品輸出額(約53億ドル)の96%(51億ドル)を占め、輸出総額(123億ドル)の41%を占めた。01年には石炭の輸出額が、前年比36.5%増加したが一方、コーヒーは28.5%、石油は33.1%それぞれ減少した。同年のコーヒーと石油の輸出合

表2 コロンビアの輸出統計

|       | 輸出額 | 前年比  |
|-------|-----|------|
| 伝統産品  | 53  | 6.3  |
| コーヒー  | 8   | 28.5 |
| 石炭    | 12  | 36.9 |
| 石油    | 31  | 33.1 |
| 非伝統産品 | 70  | 10.3 |
| 輸出総額  | 123 | 6.3  |

(注)01年の輸出実績で金額単位は億ドル。前年比(単位%)は00年に対する輸出額の増減率。伝統産品と非伝統産品は輸出総額の内数。石油には関連品も含む。コーヒーと石炭、石油は伝統産品の内数。

(出所)コロンビア中央銀行02年3月号月報掲載の統計(単位100万ドル)より抜粋して作成。

計(39億ドル)は同総額の32%を占めている。

これら3品目の輸出では、価格動向が明暗を分けた。石炭の輸出単価(1トン当たり)は00年の26.73ドルから、01年には30.93ドルと15.7%値上がりした。一方、01年において、コーヒーの輸出単価は前年比29.5%安の0.72ドル(1ポンド当たり)に、石油のそれは1バレル23.79ドルで前年より17.4%低下した。

### 重要なコーヒーと石油

コロンビアの経済・社会にとって、コーヒーと石油の両部門の安定的な発展は不可欠である。まずコーヒーについては、国際相場の下落によってコロンビアのコーヒー栽培農家の所得が激減していることが指摘されている。コーヒーは世界的に供給過剰に陥っていることが最大の値下げ要因である。01年コーヒー年度(00年10月~01年9月)における世界のコーヒー豆生産量は1億1,500万袋(1袋60kg)であったが、消費量は1億800万袋であった。コロンビアにおけるコーヒー豆の価格は1ポンドにつき1960年代と70年代では3ドルであった。し

かし、01年10月には0.16ドルに下落した。

このような値下がりが、約57万人に上る同国コーヒー豆栽培農民の生産意欲を奪っている。コーヒー農家の96%が耕地面積10エーカー以下の小農であることも、これらの農民を困窮させている。同国の農業政策は、世界が注目している麻薬対策にも関係する。

同国政府は麻薬(コカイン)の原料作物であるコカの栽培から、他の農作物への転作を促している。その転作対象にも選ばれているコーヒーが価格下落によって、生産意欲が低下することが憂慮されている。コーヒー豆の収穫時期には、200万人から400万人の雇用が生じている。人口約4,200万人の同国にとって、コーヒー生産は重要な雇用源である。

コロンビアのGDPの約2割を農業部門が占めている。コーヒー関連分野でGDPの2%を占める。

石油は最大の外貨収入源であるとともに、主要な財政収入源にもなっている。国営石油会社であるEcopetrolの01年における収入(7,790億ペソ)は、GDPの0.4%を占めた。国庫への納付額は53億4,000億ペソで政府の経常歳入額の23%を占める。同年

の財政赤字額は GDP の 5.8 % であるだけに、国営石油会社の収益は貴重な財源である。しかし、同社の収入は 00 年には 1 兆 2,720 億ペソを計上しているため、前記 01 年のそれは前年より約 4 割も減少している。

### 域内経済を支えるコロンビア

コロンビアと周辺 4 カ国は地域経済統合組織であるアンデス共同体（以下スペイン語略称 CAN と表記）を構成している。00 年の貿易統計（WTO, International Trade Statistics 2001 による）によると、CAN 全体の輸出総額 579 億ドルの 9 %（52 億ドル）が域内輸出であった。この内、コロンビアの輸出総額は 130 億ドルで、域内向けは 22 億ドルを占めた。従って、CAN の域内輸出に占めるコロンビアのシェアは 43 % である。

同年の域内輸入についても、コロンビアが CAN 加盟国の中で最高のシェアを占めている。CAN の輸入総額は 397 億ドルで、このうち域内輸入が 55 億ドルであった。コロンビアの輸入総額は 115 億ドルで、このうち域内輸入が 16 億ドルであった。コロンビアの域内輸入額は CAN の域内輸入

総額の 29% を占めたことになる。

CAN 事務局による 01 年の域内輸出統計（01 年 12 月発表の暫定値）においても、コロンビアが占めるシェアが高い。その総額約 57 億ドルの内訳はコロンビアから域内 4 カ国向け輸出合計が 27 億ドルであるのに対して、同 4 カ国からコロンビアへの輸出は 14 億ドルである（表 3）。

表 3 CAN 各国の域内輸出（01 年）

| 輸出国     | 域内輸出額と内訳    |
|---------|-------------|
| ボリビア B  | 4 (C2 V1)   |
| コロンビア C | 27 (V17 E7) |
| エクアドル E | 8 (C3 V2)   |
| ペルー P   | 5 (C2 E1)   |
| ベネズエラ V | 13 (C7 P3)  |

（注）輸出額単位は億ドル。（ ）内は域内輸出先 1 位と 2 位の国別内訳額。ローマ字は輸出先国名。

（出所）CAN 事務局発表の統計より作成。

コロンビアをはじめ、CAN 加盟国の貿易は域外が域内を上回っている。域内貿易の規模はまだ小さいが、その伸び率が高いことと、いわゆる非伝統産品と呼ばれる工業製品等の輸出先としては域内貿易が重要な地位を占めていることが注目される。特に、先進国よりも周辺国向け輸出への依存度が高

い製造業にとって、CAN のような地域統合による域内輸出の拡大は、雇用拡大にも貢献している。

例えば、CAN 域内で最大の 2 国間貿易を構成しているコロンビアの対ベネズエラ輸出でも、01 年における非伝統産品の対前年比輸出伸び率を米国向けとベネズエラ向けとで比較すると、その多くにわたって後者が前者を上回っている（表 4）。CAN 事務局によれば（01 年 12 月発表）、域内貿易によって 00 年に創出された新規雇用者数（直接・間接雇用合計）はコロンビアで 22 万 8,000 人に上り、次いでベネズエラ 9 万 7,000 人、エクアドル 8 万 6,000 人、ペルー 2 万 3,000 人である。同年における域内輸出による雇用創出人数の輸出全体のそれに対する比率はコロンビアで 18 % であり、ボリビア 31 %、エクアドル 10 %、ベネズエラ 9 %、ペルー 6 % と評価している。輸出により新規雇用が創出された主な業種として、CAN 事務局は、コロンビアでは基礎化学品や繊維・衣料、機械を、その他の CAN 加盟国でもコロンビアのような非伝統産品部門の生産部門の雇用効果を指摘している。

CAN 全体で輸出産業の雇用効果が

表 4 コロンビアの輸出伸び率（01 年）

| 輸出先       | 米国     | ベネズエラ |
|-----------|--------|-------|
| 総額        | (19.5) | 33.7  |
| 非伝統産品     | 0.2    | 33.8  |
| 農産物       | (2.6)  | 73.1  |
| 工業製品      | (2.9)  | 30.8  |
| 食品・飲料・タバコ | 22.2   | 47.4  |
| 衣料        | (1.2)  | 29.8  |
| 機械・機器     | 73.8   | 26.0  |
| 輸送機器      | 86.7   | 40.7  |
| 合成樹脂・ゴム製品 | (19.6) | 23.7  |
| 木材・同製品    | 5.8    | 64.6  |

（注）伸び率の単位は % で、米国・ベネズエラ向け輸出額の対前年比伸び率。農産物と工業製品は非伝統産品の内数。その他の製品は工業製品の内数。（ ）内の数字は対前年比減少率。（出所）表 2 と同じ。

認められており、域内各国の共通政策課題である雇用拡大に貢献する観点からも、輸出商品構成が多岐にわたる域内貿易の役割は重要である。この域内貿易の主要な輸出入国であるコロンビアの国内情勢の安定は、CAN 域内の発展に与える影響が大きい。

### プラン・コロンビアへの期待

コロンビア国内の経済を低迷させている最大の要因は、政府と武装ゲリラ

組織との和平が実現していないことである。同国の主要な反政府武装組織は、FARC（コロンビア革命軍）とELN（国民解放軍）の左翼組織である。また、近年は極右私兵組織（パラミリタリー、略称AUC）も勢力を伸ばしている。AUCは農場主が左翼ゲリラに対する自衛のために私兵を雇うことから組織された。

米国務省の報告（Patterns of Global Terrorism 2001 以下テロ報告）では武装組織の人数についてFARC1万6,000人、ELN5,000人以下、AUC9,000人と推定されている。これら3組織が与えた人的被害について、テロ報告は次のような数字を挙げている。01年に前記3組織が関与して殺害された人数は約3,500人に達した。

政府軍と武装組織、あるいは武装組織間の戦闘によって、居住地を離れて難民化する住民が増加している。その人数は210万にも上ると報道されている。この中には敵対関係にある武装組織を支持していることを理由に、住民が虐殺される事件も続発している。テロ報告によれば、01年における国内難民の43%はAUCが、また35%についてはFARCとELNが関係していると指摘している。左翼組織に強

硬手段をとっているAUCは、FARCやELNの左翼組織に協力的な農民を攻撃している。誘拐事件はコロンビア全土で01年には2,800件を数えたが、その80%がFARCとELNが関与していると、テロ報告では述べている。

このような人的被害と並んで、インフラ部門への攻撃による損害も、経済活動を停滞させている。石油生産が低迷しているのは、左翼武装組織からの攻撃も影響している。Ecopetrolの発表によれば、同社の01年における石油生産は武装組織の攻撃を受けて、年間2,400万バレルの生産を阻まれた。同社の石油・天然ガスパイプラインや油田は、度々左翼武装組織からの攻撃を受けている。

都市においても爆破や誘拐、警察施設への襲撃あるいは銀行強盗などの事件（FARCが関与しているケースがあるとみられている）が起きている。

98年に就任したバストラーナ大統領は国内の和平を達成するために99年、総合国家開発計画ともいうべき「プラン・コロンビア（Plan Colombia）」を発表した。

同計画は、国内の和平を実現させるためには麻薬撲滅や貧困対策を実現できる開発戦略を必要としている、とい

う認識に基づいて策定された。同計画の予算総額は75億ドルを想定しており、このうち40億ドルがコロンビアの資金で、35億ドルは国外からの資金協力をそれぞれ想定している。

麻薬対策については、コカインの原料であるコカの栽培をやめさせることが重要である。プラン・コロンビアでは、農業開発や地域開発を進めることによって、麻薬産業への経済的な依存を根絶させることを狙っている。コカの栽培面積は95年の12万5,700エーカーから、99年には30万3,500エーカーに拡大しており、さらにコカ栽培の監視を逃れるために近年はヘロインの原料となるケシの栽培が増えていると米国務省は報告している。一方、コーヒー農家の貧困状態は前記のような価格低下によって、改善されていない。5%のコーヒー農家が、アグリビジネスタイプの生産によって、コロンビア全土のコーヒー生産量の40%を占めている。この事実から、コーヒー農家の所得格差が大きいことがうかがえる。また、コカから他の農作物への転換の難しい現実を示している。

コロンビアでは周辺国からのコカ原料とその中間原料の密輸入が横行しており、これらを精製・加工した

コカインは各国に密輸出されている。麻薬取引には密造・密輸カルテルに加えて、武装組織も関係している。麻薬取引が重要な資金源となっているからである。

各国はコロンビア・プランの成果をあげることが国際的な麻薬対策に資することを認識して、経済協力に応じている。ブラッセルで01年4月30日に開催された関係会議で、コロンビアへの協力を表明したのは18カ国、5国際機関(01年4月30日現在の表5参照)に上っている。国際機関の中ではアンデス共同体諸国の地域国際機関であるアンデス開発機関(スペイン語略称CAF)が最大規模の協力を表明した。

中南米諸国(アルゼンチン、ブラジル、チリ、コスタリカ)は、以上の協力とは別の形で、コロンビアの国内和平に向けての2国間ベースの技術協力に取り組んでいる。これら4カ国による協力事業は、農村における自立可能な地域づくりを目指す技術協力である。例えばブラジルは柑橘類、ゴム、カカオ生産プロジェクトを提示している。また、コスタリカはエコツーリズムや森林資源の利用についての協力を計画している。

表5 プラン・コロンビアへの協力

| 拠出国・機関   | 金額       |
|----------|----------|
| 米国       | 370.00   |
| 日本       | 175.00   |
| スペイン     | 100.00   |
| アンデス開発機関 | 362.00   |
| 欧州委員会    | 126.00   |
| 米州開発銀行   | 100.00   |
| 世界銀行     | 100.00   |
| 国連       | 30.00    |
| 総額       | 1,543.37 |

(注) 金額単位は100万ドル。

総額は表に記載されていない国の拠出額も含む。本表には拠出額1億ドル以上の国のみ記載。金額は信用供与額とその他の協力事業の合計で、今後6年以内に供与する予定の表明額。

(出所) コロンビア大統領府。ブラッセルで2001年4月30日開催された関係会議における表明額一覧表より抜粋。

### 米国が最大の援助国

コロンビアに対する最大の援助国である米国は、プラン・コロンビアへは総額13億ドルの資金援助を00年6月に決定している。米国はコロンビアの麻薬対策を重視してきた。

その理由は、米国で出まわっているコカインの90%がコロンビアから入っているからである。また、ヘロイン

も南米産が60%を占めるが、その主な供給源はコロンビアであると推定されている。米国社会が麻薬から受ける損失については、00年に麻薬によって失われた人命が5万人、経済的な損失が1,600億ドルという数字も上がっている。米国内の麻薬対策はコカインやヘロインなどの生産国の協力が不可欠である。

### 地域の安定に貢献する和平

南米各国は電力や石油・天然ガスの国境を越えた供給体制を強化している。そのためにも、コロンビア国内の治安確立と和平回復が不可欠である。

コロンビア武装組織については、パナマとの国境地帯にも進出していることから、パナマ運河の安全への影響を懸念する声もある。

パストラナ大統領は今年2月、FARCとの対決路線に方針を転換した。5月に実施された大統領選挙では、左翼に対する強硬路線を主張するウリベ元上院議員が52.9%の得票を得て当選し、8月7日に就任した。ウリベ政権の強硬路線が和平をもたらすためには、今後国民の選択も問われている。